

2016 年度冬

福島を感じて考えるスタディツアー

～飲まないあなたに来て欲しい～

『会津日本酒ツアー2017』

活動報告書

2017 年 3 月

企画：スタ☆ふくプロジェクト



—助成—

住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム—活動・研究助成—2016 年度
東日本大震災 草の根支援組織応援基金

目次

1. はじめに-----	2
2. 企画背景-----	3
3. 企画趣旨-----	4
4. 団体概要-----	5~7
5. ツアー詳細-----	8~23
(1) ツアー概要-----	8
(2) ツアー行程-----	9~12
(3) アンケート結果-----	13~14
(4) 参加者の声-----	15
(5) 担当者の声-----	16
(6) 本ツアーの価値・評価-----	17
6. 広報・メディア掲載について-----	18~19
7. ご協力いただいた皆様-----	20
8. 総括-----	21~22
9. お問い合わせ先-----	23

1. はじめに

福島の今を知ってもらおうと企画した『スタ☆ふく』のツアーも、2012年4月から始まり、今回で18回目となります。本ツアー「飲まないあなたに来てほしい 会津日本酒ツアー2017」は、14名のお申し込みをいただき無事にツアーを実施することができました。会津地域でのツアー催行は今回で3度目となりましたが、これも多くの方々のお力添えあつてのことです。ご協力いただいた方に感謝の意を込め、また、スタ☆ふくを知らない方にも、私たちの活動を知っていただき、福島の今を知るきっかけになっていただきたいと思い、本報告書を作成しました。この報告書を通して、少しでも私たちの活動や福島を知っていただけたら幸いです。

1日目参加者集合写真 ー末廣酒造嘉永蔵にてー



2. 企画背景

「福島現状を、実際に見て体験することで、福島への関心を深めてほしい」という思いの元、2012年4月JASP(Japan All Student Project)という団体の1プロジェクトとして発足し、企画されたのが“福島を感じて考えるスタディツアー”「スタ☆ふく」でした。これまでに福島県内7地域で17回、福島県内外から計399名を動員するスタディツアーを実施してきました。地域の人々との交流に重点を置いたプログラムを通して、福島現状を伝えることや、その地域特有の課題に向き合う人々の「生の声」を発信することで、風評被害の払拭や福島への関心の高度化などをはかり、震災からの復興や地域活性化の一助となるようなツアーの企画をしております。参加者ならびに地域関係者からは「今後とも継続的にツアーを実施してほしい」という声を多くいただいております。

企画者である私たちが一番に「福島」から学ぶこと、そして、福島の「リアル」を発信し、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興とは何か」ということや、福島や各地域の「未来」について、今後も考え続けていきたいと考えております。地域と参加者をつなぐ架け橋となるよう、今後も継続的に活動をしていきます。

昨年2度目となる会津日本酒ツアーを企画・実施しました。しかし、若年層に日本酒が浸透していないという声や、我々の周りにも日本酒を楽しむ若年層がいないという感覚を、昨年に引き続き感じておりました。また、私たち自身が地域に関わり続けたいという思いと、関係者からの継続的なつながりの構築を求める声を受け、今プロジェクト設立5年目の年度、最後のツアーとして企画が始まりました。

3. 企画趣旨

今まで日本酒をあまり飲む機会がなかった、日本酒を知らなかったという若年層に、日本酒を飲んでほしいという想いで企画が始まりました。若年層が日本酒を知るきっかけを作り、普段の生活に“日本酒”という一つの楽しみが増えてほしいという想いがありました。

また、私たちスタ☆ふくは、日本酒を多くの人に飲んでほしいと奮闘する方や、地元会津を想い日本酒造りに熱をそそぐ方など、会津でたくさんの魅力的な方々と出会いました。多くの人にその会津の方々と出会ってほしい、ただ日本酒を知るだけでなく、会津の人の想いを通して日本酒を好きになってほしいと思い、今回の企画にあたりました。



—会津日本酒ツアー2017 企画メンバー—

4. 団体概要

『スタ☆ふくプロジェクト』は母体団体である『全国学生プロジェクト(JASP)』から独立して設立された、福島大学の学生有志で構成される学生団体です。JASPは、東日本大震災をきっかけに全国の学生が繋がり、日本の復興への若者の無限の可能性を発信することを目的として福島大学の学生有志を発起人として2011年10月に設立され、2012年3月10日・11日タスキリレー（のべ1000人が参加）や福島市内の街なか広場で行われた鎮魂イベント「JASP in FUKUSHIMA」で、のべ1万3千人を動員したことなどで成功を収めました。

しかしこのイベント後、街中のにぎわいや活気は一過性のものであるという課題が残りました。福島県の震災による被害は、単に「地震」「津波」によるものだけでなく、「原発」「風評」といった人災をもたらしたという現実は今後も目に見えない形としてその爪痕が残っていくと想定できます。この特殊な被災状況に、自身が被災地に出向きリアルな福島を五感で感じること、震災に対する自分の立場や考え方を明確にすることを目的に、2012年夏期（8月～9月）には福島を五感で感じる旅行「福島スタディツアー」企画を提案・実施しました。その後2013年4月に「福島を感じて考えるスタディツアー」を主な事業とした団体（「スタ☆ふくプロジェクト」）としてJASPから独立して以降、これまでの実践を被災後の福島全体のイメージの改善を図るだけでなくツアーを通したまちづくり・地域活性という視点からも活動の継続に励んでいます。参加者への原体験の創出により福島に対しての意識の変化や地域住民のモチベーションの喚起を生み出しツアー参加者がその後も地域に足を運んだり、地域住民同士のコミュニティによる協力体制の構築となっていたりと、成果や価値を確実に生み出してきました。これまでに福島県いわき市、二本松市、喜多方市などで計17回のスタディツアーを実施してきました。

【団体ビジョン】

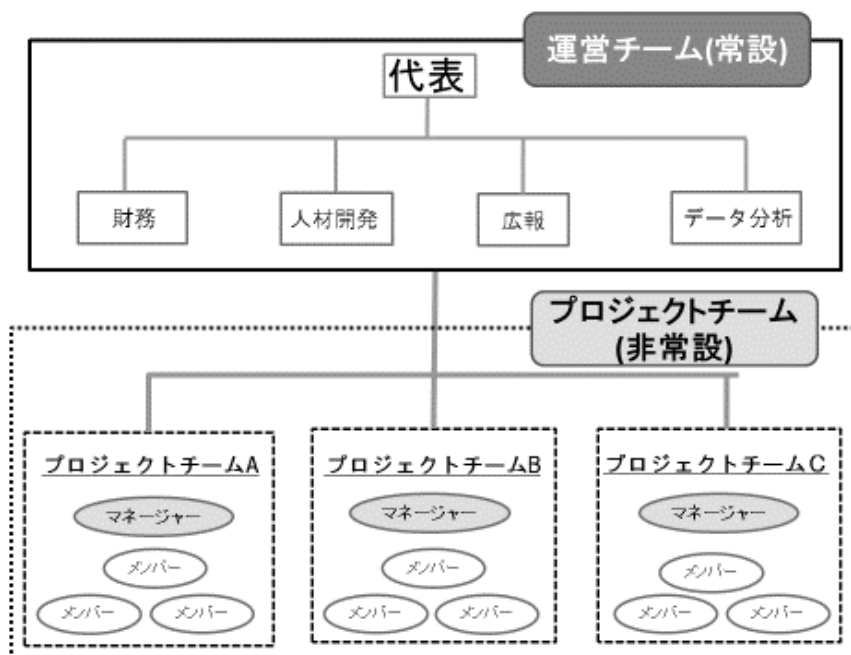
「先進的な地域活性化モデルとしての福島」の実現

【受賞歴】

2013年6月 観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞
「東北ブロック賞」』受賞

今しかできない旅がある
若林

【組織図】



【構成メンバー (2017年3月現在)】

～運営チーム～

代表	菊地実咲	人間発達文化学類	2年
人材開発	伊藤如晏	経済経営学類	2年
広報	菅野ゆう	行政政策学類	2年
データ分析	安齋瑞希	人間発達文化学類	2年
財務	牧内美樹	経済経営学類	2年

～活動メンバー～

阿部晴佳	行政政策学類 4年	遠藤圭一郎	経済経営学類 2年
田辺将大	共生システム理工学類 4年	佐藤美紗	人間発達文化学類 2年
羽賀さやか	行政政策学類 4年	戸田龍佑	経済経営学類 2年
三浦菜生	行政政策学類 4年	宝槻亮汰	行政政策学類 2年
渡辺直子	人間発達文化学類 4年	小室芽美	経済経営学類 1年
黒澤和也	経済経営学類 4年	古屋優衣	人間発達文化学類 1年
平澤和弥	経済経営学類 3年	国分朋実	人間発達文化学類 1年

プロジェクト開始：2012年4月

団体発足：2013年4月

【過去のスタディツアー】

2012年8月	「スタ☆ふく 水産・漁業ツアー」	いわき市 (32名動員)
2012年9月	「スタ☆ふく 観光業ツアー」	喜多方市 (27名動員)
2012年9月	「スタ☆ふく 農業ツアー」	二本松市 (25名動員)
2012年12月	「スタ☆ふく 冬の二本松ツアー」	二本松市 (18名動員)
2013年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市 (37名動員)
2013年9月	「スタ☆ふく まちづくりツアー」	二本松市 (33名動員)
2013年11月	「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー (子ども)」	郡山市 (15名動員)
2013年11月	「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー (食)」	福島市 (12名動員)
2014年8月	「スタ☆ふく 霊山町子どもツアー」	伊達市 (20名動員)
2014年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市 (32名動員)
2015年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町 (19名動員)
2015年2月	「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」	二本松市 (13名動員)
2015年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市 (40名動員)
2015年9月	「スタ☆ふく 東和農業ツアー」	二本松市 (15名動員)
2016年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町・喜多方市 (20名動員)
2016年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市 (29名動員)
2016年9月	「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」	二本松市 (12名動員)
2017年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町 (14名動員)

【団体連絡先】

〒960-1296 福島県福島市金谷川1 福島大学学生課 「スタ☆ふくプロジェクト」

Mail : suta.fuku@gmail.com

5. ツアー詳細

(1) ツアー概要

<タイトル>

飲まないあなたに来てほしい『会津日本酒ツアー2017』

<実施日>

2017年2月25日(土)～2月26日(日)【1泊2日】

<実施場所>

福島県会津若松市、会津坂下町

<参加者動員数>

計14名

<参加スタッフ>

菅野ゆう (福島大2年)

菊地実咲 (福島大2年)

田辺将大 (福島大4年)

安齋瑞希 (福島大2年)

小室芽美 (福島大1年)

国分朋実 (福島大1年)

<参加料金>

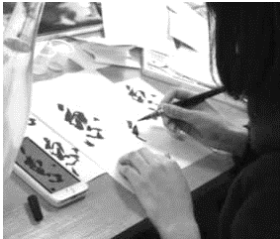

シングル：22,300円

ツイン：21,600円



(2) ツアー行程




1日目 2月25日(土)

10:40	郡山駅集合	<p>スタッフがプレートを持って出迎えました。</p> 
11:55	会津若松駅出発	
12:10~	昼食(とん亭)	<p>会津若松市にある「とん亭」で会津若松名物ソースかつ重をいただきました。ここで参加者の自己紹介も行いました。</p>  
13:20~	末廣酒造見学 (末廣酒造嘉永蔵)	<p>末廣酒造の見学蔵で、蔵人の小竹晴彦様に日本酒造りの工程を説明していただきました。</p> <p>震災当時の酒蔵の被害状況などの貴重なお話も聞くことができました。</p> 
15:15~	曙酒造見学・ラベル作り (曙酒造)	<p>実際に日本酒造りが行われている酒蔵を見学させていただきました。</p> <p>見学後、その日に搾ったお酒の瓶詰め体験をしました。</p> 

		<p>自分で瓶詰めしたお酒に貼るラベルを作りました。特に良いラベルをデザインした参加者には、杜氏の鈴木孝市様から曙酒造限定グッズがプレゼントされました。</p> <p>ラベル作り中、鈴木様と会津旨酒五ノ井酒店の五ノ井智彦様が日本酒への熱い思いを話してくださいました。</p> 
18:10~	懇親会(會津っこ)	<p>「彩喰彩酒 會津っこ」で会津の郷土料理のコースと会津の日本酒をいただきました。末廣酒造見学でお世話になった小竹様と會津酒楽館店長の渡辺宗太郎様に来ていただき、日本酒を飲みながらお話をしして盛り上がりしました。</p> 
21:00~	宿泊	<p>会津ワシントンホテルに宿泊しました。</p>

2日目 2月26日(日)

	宿泊先出発	
9:30~	手びねり体験	<p>会津慶山焼きの「やま陶」で手びねり体験をしました。職人の倉田潤様に教えていただきながら、それぞれ深さや形、色の違う自分だけのぐい呑みを作りました。</p> 
11:30~	お土産購入(會津酒楽館)	<p>懇親会に来てくださった渡辺宗太郎様のお店でお土産を購入しました。</p> 

12:30	昼食(田事)	<p>会津郷土料理のお店「料理旅館 田事」でめっばめしをいただきました。</p> 
13:20~	まとめ・ふり返り(田事)	<p>昼食を食べた後、スケッチブックとツアー中に撮った写真を使って二日間の活動をふり返りました。</p> <p>参加者各自でワークシート記入後、感想を発表していただきました。</p>  
14:35	会津若松駅解散	
15:45	郡山駅解散	二日間ありがとうございました。

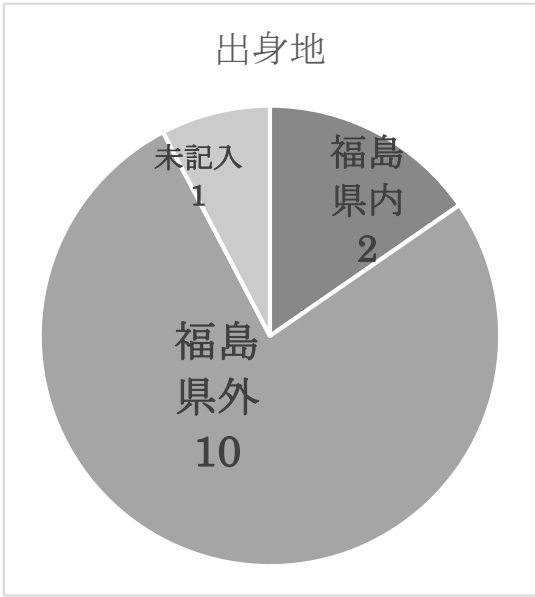
(3) アンケート結果

○ツアーの満足度 **3.51/4.0** ポイント

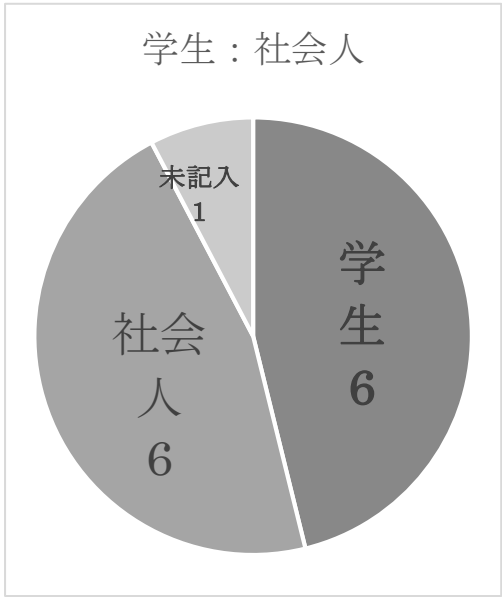
	悪	～	～	良		
	1	2	3	4	計 (人)	平均
① ツアー全体	0	1	3	9	13	3.6
② 料金	0	2	6	5	13	3.2
③ タイムスケジ ュール	0	0	7	6	13	3.5
④ お食事	0	2	2	9	13	3.5
⑤ 宿泊先	0	2	4	7	13	3.4
⑥ スタッフ対応	0	0	2	11	13	3.9
⑦ コンテンツ	0	2	3	8	13	3.5
全体						3.51

○ツアー参加者状況

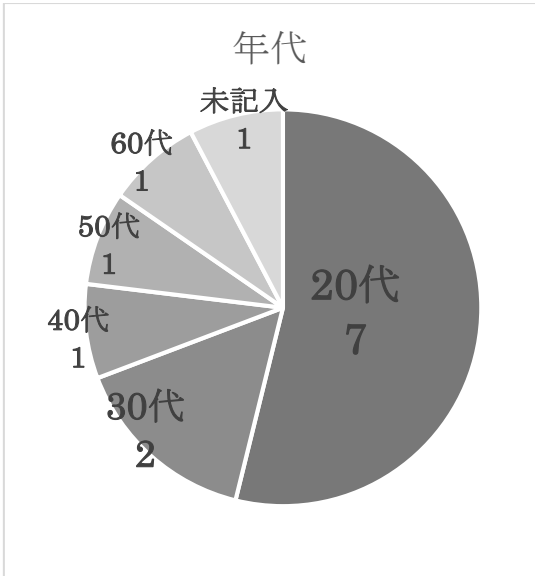
- 参加者人数…14人
- 学生：社会人…6：6（アンケート回答母数：13）
- 福島県内出身：福島県外出身…2：10（アンケート回答母数：13）
- 男：女…5：8（アンケート回答母数：13）
- 参加者年代（アンケート回答母数：13）
 - 20代：7
 - 30代：2
 - 40代：1
 - 50代：1
 - 60代：1
 - 未記入：1



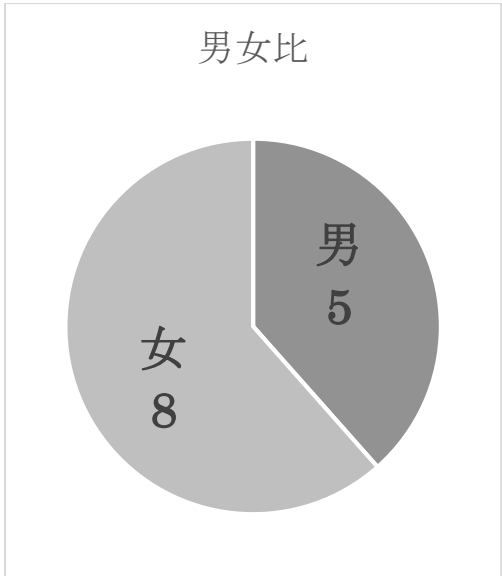
福島県外から多くの方に参加いただいています。



社会人と学生の人数は同じでした。



様々な年代の方に参加していただいています。20代の方が最も多い結果となりました。



男女比は5:8となり、女性の参加者が若干多い結果となりました。

(4) 参加者の声（アンケートより）

本当に楽しかったです！ツアーに参加しないとできないことがたくさんあって、自分で旅行するより、あえてツアーに参加してよかったです！（20代女性/学生）

すごく楽しくてまた参加したいと思いました。スタッフの皆さん、酒蔵の皆さん、参加者さんとの出会いをこれからもずっと大切にしていきたいです。会津の良いところを私から友達、家族に伝えていきたいです。本当にありがとうございました。（20代女性/社会人）

日本酒・会津の人に触れて有意義でした。一言では語れません。（40代男性/社会人）

スタ☆ふくの人たちの福島を知ってもらおうという気持ちが、参加する人や地域の方々に伝わり、充実したツアーになったと思った。地域の人とスタ☆ふくの人つながりがあり、知りたい知ってもらいたい思いが存在したから私自身も会津についてさらに魅力を感じることができた。（20代女性/学生）

(5) 担当者の声

私がこの会津日本酒ツアー2017を企画しようと決めたきっかけの一つは、前回の会津日本酒ツアー2016を企画していた先輩方でした。会津日本酒ツアー2016では、裏方のスタッフとして参加させていただきました。会津日本酒ツアー2016の企画では、先輩方と会津の地域の方との信頼関係、そして本当に日本酒が好きなのだと感じる先輩方の姿を目にしました。その姿を見て、自分も会津の方と出会いたい、会津の日本酒を知りたい、と思いました。それまでは、自分も日本酒を全く知らず、日本酒を飲む機会もほとんどありませんでした。しかし、その会津日本酒ツアー2016の先輩の姿、日本酒をおいしそうに飲む先輩方を見て自分も飲みたいと思うようになりました。そこで、会津日本酒ツアー2017の企画を始めました。

先輩方が出会ってきた会津の方々、会津を想い、日本酒を想う、カッコいい方ばかりでした。そして、スタ☆ふくをご理解いただき応援してくださっている、あたたかい方ばかりでした。私も企画を進める中で、その方々にたくさんお世話になり、ご支援いただき企画してくることができました。酒蔵を見させてもらって、お話をさせてもらって、日本酒を飲ませてもらって、いつからか私も日本酒がおいしいと思うようになっていました。

企画を進める中で、私自身が日本酒を知り、日本酒を好きになった。それは、会津の人との出会いがあり、交流があったからこそだと思います。自分のまわりに日本酒を飲む友人がいないこともあり、もっと多くの人に会津の人を知ってもらえれば、日本酒を好きになってくれるのではないかと思い企画をしてきました。

ツアー当日は、参加者の酒蔵を見学して楽しそうにする姿や話を聞いてうなずく姿を見て、日本酒を知ってもらえたことを感じました。しかし一方で、会津の方との交流が少ないものになってしまったところもあります。スタ☆ふくにできることはなんなのか、スタ☆ふくのツアーが他の一般のツアーと違うところは何なのか、もう一度見つめ直そうと考える機会となりました。そしてまた、自分がまだまだ会津や福島を知らないことがたくさんあると強く感じ、もっと自分自身地域を訪れ、福島の地域を知ろうと強く思いました。

本企画は、個人としてもスタ☆ふく団体としても多くの課題が見つかったものとなりました。

そして、スタ☆ふくは多くの方から応援をいただき、たくさんのご支援があって活動ができていくということを改めて感じました。このツアーが開催できましたのも、企画にご協力いただいた地域の皆様、参加いただいた参加者の皆さま、多くの方のご支援のおかげでございいます。この場をお借りして、御礼申し上げます。

会津日本酒ツアー企画担当
福島大学2年 菅野ゆう

(6) ツアーの価値・評価

>参加者

会津・福島に来るきっかけ、日本酒を飲むきっかけづくりをすることができました。

日本酒のおいしさや、造る際に手間暇がかかっていることに気が付くことができました。

>地域の方

本ツアーを経てさらに会津の日本酒に興味をもった、今後継続的に日本酒を飲む可能性のある若者を増やすことができました。

観光地としてだけでなく、会津の新たな魅力（地域の方の温かさや日本酒造りが盛んであること）に気が付いた人たちを増やすことができました。

本ツアーの目的は「日本酒を飲む若者の創出」でした。昨年と比較すると、普段は日本酒をあまり飲まないという参加者が多く集まりました。初めて酒蔵を見学する方ばかりで、酒蔵見学をする際には、目を輝かせ、地域の方の案内を熱心に聞いている様子が見受けられました。本ツアーでは、観光地としての会津の魅力を伝えることは難しかったと思います。しかし、日本酒の魅力や地域の方の魅力を感じる事が出来たようです。地域関係者にとっては、懇親会まで参加できるということで、蔵見学や様々なイベントだけでその参加者と触れ合うよりは、長く、深く交流ができたのではないのでしょうか。

またスタ☆ふくにとっては、スタ☆ふくを応援してくださる多くの参加者や地域関係者の存在を強く感じるツアーとなりました。スタ☆ふくに地域の魅力を最大限伝えるためのツアーづくりが求められていること、私たち自身が何をしたいのかを明確化することの必要性などを感じました。これらのことを念頭に置き、より良い活動ができるようこれからも努力し続けてまいります。

6. 広報・メディア掲載について

<宣伝方法・経緯>

1月10日	募集開始
2月17日	募集締め切り・ツアー催行決定

- ・スタ☆ふく HP (<http://sutahuku.jimdo.com/>)
- ・Facebook ページ…イベントページ作成、リレー投稿、参加希望者へコンタクト
- ・twitter アカウント (@Study_Fukushima) …準備の進捗状況やツアー告知などを発信
- ・過去のツアー参加者へコンタクト
- ・テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼
- ・告知協力のお願—福島大学教授、ゼミ
 - 各大学のボランティアサークル、学生団体、
 - ボランティア、観光、農業に関連する団体

<メディア掲載履歴>

▽ラジオ

- ・2月9日(木) J-WAVE 「JAM THE WORLD」電話出演

▽テレビ

- ・1月30日(月) 福島テレビ放送 「みんなのニュース」電話出演

▽新聞

- ・河北新聞

1月28日(土)掲載



・日本経済新聞社
3月7日（火）掲載



7. ご協力いただいた皆様

<企画>

- ・末廣酒造株式会社 小竹晴彦様
- ・曙酒造合資会社 鈴木孝市様
- ・会津旨酒五ノ井酒店 五ノ井智彦様
- ・株式会社やま陶 曲山輝一様
倉田潤様
- ・會津酒楽館 有限会社 渡辺宗太商店 渡辺宗太郎様

<企画実施>

福島交通観光株式会社

8. 総括

2012年4月にプロジェクトが発足したスタ☆ふくプロジェクトのメイン事業であるスタディツアーも今回で18回を数えるに至りました。このように回数を重ねながら活動を続けられているのは、各地域の関係者の皆様をはじめとする多くの方々のご理解とご協力をいただいているおかげです。感謝の気持ちを忘れることなく、団体や福島の更なる発展のために邁進していく所存です。

さて、会津で開催してきました「会津日本酒ツアー」は本ツアーで3回目となります。その目的は「日本酒を飲む若者を増やす」ことでした。このテーマ・目的を設定した背景には、私たち自身が20歳となり日本酒を飲むようになりましたが、好きで日本酒を飲む友人が多くなかったことがあります。これまでのつながりから、日本酒を造る人たちの志の高さを知っている私たちにとっては残念なことでした。ツアー当日、参加者は地域関係者の話を聞くことで、日本酒を造る際にかかる手間や日本酒にとって米がいかに大切であるかなどを強く感じていらっしゃいました。今後日本酒を飲む際に、本ツアーでお世話になった酒蔵のお酒を手取るようになったり、お酒の種類の違いを理解して選ぶようになったりするならば、本ツアーでの経験が価値あるものになったといえるのではないのでしょうか。

また、本ツアーは私たちにとって挑戦でありました。これまでは、東日本大震災を経て立ち上がってきた人たちに焦点を当て、震災後から現在までの経験を参加者に知らせるような企画をつくって参りました。しかし本ツアーは、「日本酒」を知ること、好きになることに重点を置きました。スタディツアーというよりは、社会科見学に近いかもしれません。ツアー当日になってみると、私たちが何をどう参加者に伝えるのか、考えが足りていないことに気づかされました。これまでのようなスタディツアーの要素を強く出したかったのか、それとも、純粋に日本酒を楽しむツアーにしたかったのかが明確にわからない、中途半端な企画になっていました。私たち自身、企画当初は日本酒を楽しむツアーを企画していたものの、次第に地域関係者の志の強さを伝えたいと思うようになりました。最後には、これまでのようなスタディツアーの要素を感じられるようなツアーを企画する運びとなりました。しかし、結果的にはこの決断が中途半端なツアーを作り上げる原因となっていたようです。これまでの“スタ☆ふく”ツアーも参加していらっしゃった方からも、「これまでのスタ☆ふくが大切にしてきたことを大切にしてほしい」などの声をいただきました。

前回のツアーからも感じておりました、「スタ☆ふくらしさ」とは何なのかという問いの答えはいまだに見つかっておりません。しかし、これまで私たちが大切にしてきたこと「自分たちが地域に寄り添うこと」はこれからも大切にしていかななくてはなりません。変えなければいけないこと、変えてもいいこと、変えてはいけないことを整理し、私たちなりの「スタ☆ふく」を作り上げて参ります。

最後になりましたが、本ツアーの企画・実施に向けてご協力いただきました地域関係者の方々、様々な形で支援・応援して下さった皆様、スタ☆ふくプロジェクトを見守ってくだ

さるすべての方々へ改めて感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2017年3月
代表 菊地実咲

9. お問い合わせ先



スタ☆ふくプロジェクト

代表：菊地実咲

住所：福島県福島市金谷川1

福島大学学生課 スタ☆ふくプロジェクト宛

Mail: suta.fuku@gmail.com

HP: <http://sutahuku.jimdo.com/>

ブログ: <http://ameblo.jp/sutafuku/>

【編集】

菊地実咲 菅野ゆう 安齋瑞希

小室芽美 国分朋実